

MJ進路通信：「進路指導室から、未来へ」



～ようこそ、アップデートされた4年目の案内所へ～

前橋女子高校進路指導部

令和8年度 第13号

令和8年6月5日（金）発行

■教育実習生による大学（母校）紹介

早いもので教育実習も今日で2週間終了。本日をもって実習を終える実習生の方もいます。実際の学校現場でいろいろなことを学び、多くの経験をしてくれたことと思います（個人的には、私（進路主事）が学年主任として接してきた元前女生がたくさんおり、非常に感慨深い2週間でした）。授業や放課後等の機会を利用して、大学の情報を聞いた在校生もいるのではないかと思います。今回の通信では教育実習生特別版として、実習生たちが通っている大学について、その特色を紹介してもらいました。「先輩と同じ大学に行ってみたい」という前女生もたくさんいると思います。是非志望校探しの参考にしてみてください。



早稲田大学先進理工学部（N実習生）

私は、早稲田大学 先進理工学部 応用化学科に所属しています。

本大学では様々な学部・学科が存在していますが、それぞれの学部・学科に共通した魅力もあれば、特有の魅力もあります。今回は、学校共通の魅力と私の学科特有の魅力の両方について、軽くご紹介します。

まず学校共通の魅力としては、様々な授業が展開されており、学部・学科を超えて、キャンパスをも超えて、自由に様々な学びを得ることができるのです。早稲田大学では学部毎にキャンパスが異なるのですが、たとえ異なるキャンパスの授業であっても履修することができます。実際、西早稲田キャンパスを拠点としている理工学部にも所属する私も、早稲田キャンパス、戸山キャンパス、所沢キャンパスの授業を履修したことがあります。異なるキャンパスの授業を履修すると、なかなか行くことのない場所へ行く良いきっかけになり、新鮮で楽しいのでおすすめです！（授業のついでにそのキャンパス周りでご飯を食べに行くこともできますしね。



次に私の学科特有の魅力としては、学科内で友人を作りやすいところです。応用化学科は必修の授業が比較的多いため、授業で同じ学科の生徒と顔を合わせる機会が多く、自然と友人が増えていきます。大学に入ると、今まで出会ったことのない価値観を持つ人にもたくさん出会うことができるので、“そんな考え方もあるのか”と新たな発見もできます。また、応用化学科は男女比がおおよそ1:1なので、理系にしては女の子が多いのも特徴の1つかなと思います。女子高出身の生徒もたくさんいるので、なんだか安心感もあります。大学の授業は意外と忙しく、やっぱり難しい勉強も多々あります。その時に、一緒に勉強をしてくれる友人がいるのは本当に心強いです。みんなで切磋琢磨し合っ

て、大学でも勉強を頑張りましょう！早稲田大学では頭がいい生徒が本当に多いので、自分と比較して苦しくなることもあります。それよりもそんな生徒たちと同じ学校・学部・学科で一緒に学ぶことができるのを誇りに思います。

ここまで勉強系の話ばかりしてしまいましたが、もちろんサークルや部活、バイト、友人とのお出かけ等楽しいこともたくさんあります。皆さん、高校生活は非常に忙しく大変だと思いますが、無理をしすぎず、心も大切に頑張ってください。応援しています！

大阪大学外国語学部（F実習生）

皆さんこんにちは！今回は私の通う大阪大学について紹介します。まず、大阪と聞いて、旅行でしか行ったことない

よ～、観光地のイメージだからなんかうるさそうって思う人も多いと思います。でも、実際はその真逆です(笑)私も最初は大阪にもこんなところあるんだ～って思いました。大阪大学には豊中キャンパス、吹田キャンパス、箕面キャンパスの3つがあります。まず、豊中キャンパスは緑に囲まれた広々としたキャンパスで、閑静な住宅街の中にあります。1年生の時は基本皆豊中キャンパスで授業を受けます。山を切り開いて建てられたキャンパスのため、坂が多く、「阪大坂」と呼ばれる長い坂を超えてやっと授業が行われる棟にたどり着けるので夏の暑い時期はかなりキツイです(笑)でも最寄り駅周辺は学生のために多くの飲食店が立ち並び、よくサークルや授業終わりに友人と夕食を食べます。次に吹田キャンパスは、1つの町かと思うほど広く、沢山の建物が立ち並んでいます。医学部、工学部、歯学部、薬学部、人間科学部の2年生以上が通うキャンパスです。近くには太陽の塔で有名な万博記念公園もあります。最後に箕面キャンパスは、3つのキャンパスの中で最も新しく、内も外もデザインに富んだオフィスのようなキャンパスです。ほぼ駅直通で、2年生以上の外国語学部のためだけのキャンパスであり、私もこのキャンパスに通っています。どのキャンパスも落ち着いており、勉強には集中して取り組める環境で、豊中キャンパスと箕面キャンパスからは都会の梅田にも電車1本で行けるので勉強も遊びも充実できます♪また、それぞれのキャンパス間を繋ぐ無料の連絡バスがあるので、2年生でキャンパス移動になる学生もそれに伴う引っ越しの必要がなく、実際に私もこのバスを利用して豊中キャンパス付近から引っ越しせずに箕面キャンパスに通っています。



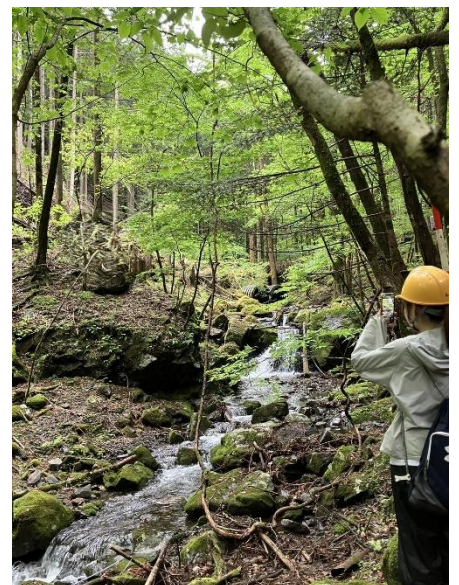
ここまでは主にキャンパスについて紹介してきましたが、ここからは皆さんも気になるであろう大学生活についても少しご紹介します。まず、急に関東から関西に行って、面白い関西人の中でやっていけるのかなあって思う人もいるかもしれません。結論、全然大丈夫です!確かに関西人の子はほんとにツッコミやボケが上手くおもしろい子が多いですが、ちゃんと関東人でもおいて行かれずにむしろ巻き込んでどンドン話しかけてくれます!おかげで友達も増え、初めは意味の違いやイントネーションに驚いていた関西弁もかなり習得してきました。あと、関西では大学〇年生とは言わず、〇回生(かいせい)ということが多いため覚えておくと役立つかもしれません。あと、関係ないですが大阪ではエスカレーターは右側に立ちます!今はそれに慣れてしまい、よく帰省時に間違えます(笑)1限開始の時間は前女と全く同じで、授業時間は1コマ90分です。長い日は6限までで、20時に授業が終わります。高校と比べれば1授業がかなり長くなりますが、自分の興味に沿った内容を友達とのグループワークを通して深く学べるのでとても充実した時間です。お昼は友人と学食を食べ、午後の授業を終えると皆サークルやバイトに向かいます。大学に対して不安を抱えている人も多いと思いますが、大学生になるとさらに行動範囲が広がり、一人で考えて行動することがさりげない日常の中でもかなり増えてきます。大学は社会人としての重要な基礎を学べる場であり人生最大の夏休みだと思うので、勉強だけでなく、部活やサークル、アルバイトや旅行など、自分のやりたいことに積極的に挑戦して、充実したものにしてください!

東京農工大学農学部 (S 実習生)

こんにちは!!教育実習生としてお世話になっている、東京農工大学農学部地域生態システム学科4年のS・Rと申します。4年過ごしてみてできた農工大の推しポイントを紹介します!

①地域生態システム学科の授業について

私が所属する地域生態システム学科では、2年頃から、森林科学、生態系保全、農業環境工学、共生持続社会、という4つのプログラムに科目が分類されていきます。私は森林科学と生態系保全を並行して履修しました。この2つのプログラムは、なんと言っても実習が多いのが大きな特徴です。その中でも一番のお気に入り、『樹木学実習』です。この実習では、とにかく樹木



の葉を覚えまくります。ある時はキャンパス内、ある時は高尾山、ある時は群馬県の山奥にある演習林、といったように、様々な環境の森林を駆け回り、樹木の葉の形や色などの特徴から種を判別できる力をつけます。この実習を履修してからは、街に生える街路樹の種類が分かったり、推し樹木を見つたり、生えている樹木から周囲の環境について考えられるようになったりと、森林や木に関する知識が格段に増えたように感じます。また、動物に関する実習も豊富です。山奥まで行って糞や足跡などの痕跡調査をしたり、自動観察カメラを設置して野生動物の行動を観察したり…研究が盛んな大学だからこそ、高いレベルの調査を体験することができ、とても興味深いです。実習は宿泊を伴うものが多く、長いと6泊するものもあります。実習の内容そのものが充実しているのはもちろんですが、近くの旅館の女将さんが作ってくださるご飯が宿舎で食べられたり、山の中に座ってみんなでお弁当を食べたり、最終日の夜は打ち上げをして朝方まで語り明かしたり…と、実習以外の部分もとても楽しいです。



一方で、前述した森林科学以外に、文系の人文社会科学寄りの学びも、物理の観点からの学びもあるのが学科全体としての特徴です。人によりますが、プログラムを決めずに自分が学びたいことに合わせて好きなように科目を履修している人もいます。このように地域生態システム学科では、科目の履修の自由度が高く分野の幅も広いので、なんとなく自然環境や農学に関わることがしたいけど、なかなか進路が絞れない、という人にもおすすめです！

②大学生活について

学生生活の面から言うと、自然豊かなキャンパスでのびのび過ごせるのも農工大の魅力です。また、大学内には広い農場や竹林があり、農場の方まで行くと府中や調布の花火が見られるくらい見晴らしがよいです。友達とレジャーシートを敷いてそこでお昼を食べたこともあります。また、キャンパス内の中庭は学生に向けて開放されていて、そこで学科の皆でバーベキューをしたり、サークルの同期で鍋パーティーをしたりしました。東京という立地でありながら、そこまで都会すぎない、群馬出身にはぴったりの環境です。

私からの大学紹介は以上です。自然、環境、農学に関わる勉強がしたい人、是非農工大の農学部も選択肢に入れてみてください！！また、まだ進路が決まっていない人は想像だけで決めつけず、色々な大学の見学に行ってみることをおすすめします。視野に入れていなかった大学でも、行ってみると思わぬ発見があるかもしれません。実際私も農工大を視野に入れたのは共通テスト後からでしたが、今では来て良かったと心から思っています。そして、3年生の皆さんはしんどさも増えてくる頃かもしれませんが、楽しいキャンパスライフを妄想しながら、自分の可能性を信じて一歩ずつ着実に進んでいって欲しいです。応援しています！

東北大学理学部 (M 実習生)

みなさんこんにちは！Mからは理系の立場から東北大を語ろうと思います！

理系学生が通う青葉山キャンパスは、のどかな山に囲まれた広くて落ち着いたキャンパスになります。何十年か昔は毎日登山をしないと通えない場所にありましたが、地下鉄の整備により駅近かつ仙台駅から一本になりました！

東北大学の特色といえばやはり、国際卓越大学に認定されていて、「研究第一」を掲げているところだと思います！（私は理系学部で唯一！実験がない学科なので現在暇を持って余していますが、農学部や工学部のお友達は毎日ひいひい実験しています）。自分の興味の赴くままに研究へ没頭する研究者の姿は、本当にかっこいいです。そんなイケナリケジョになりたい方には、東北大学をぜひおすすめしたいです！

次に本学の数学科の魅力について話させてください。その魅力とは、ズバリ「アット



ホームさ」です。数学科は1学年50人弱で構成されており、高校の時のクラスメイトのように全員と仲良しです！また学年を超えた交流も盛んで、修士や博士、また教授の方とお話しできるイベントが2週間に1回設けられています！そこにいくと、皆さん数学の話しかなくて、ヘンタイだな～と思いつつもそんな数学科が大好きです。私、オープンキャンパスで数学科の学生企画をやる予定なので、ぜひ興味がある方は覗いてみてください！

先ほど暇と言っていた私ですが、毎日12時間ほど大学にこもって、ゼミの準備や趣味でやっている統計の勉強にいそしんでいます。大学生は「人生の夏休み」と言われることがありますが、私はむしろ「人生の中で唯一自分の好きなことに熱中して学べる期間」だと思っています。だからこそ、ぜひみなさんにも、自分の好きを全力で追いかける大学生活を送ってほしいです！

慶應義塾大学文学部（K 実習生）

みなさん、こんにちは！私は、慶應義塾大学文学部中国文学専攻に所属している4年生です。慶應は「キラキラして遊べる大学！」というイメージがあると思いますが（私も入学前はそう思っていました）、今回は実際に通ってみて感じた意外な特色を紹介したいと思います。主に、①勉強が忙しくもあり楽しいこと ②さまざまなバックグラウンドを持つ学生に出会えること ③上昇志向や挑戦心を持つ人が多いことの3つが挙げられると思います。

①1・2年生の頃は必修科目などで授業数が多く、毎日の出席や複数科目のテスト勉強に追われていました。しかしその一方で、

魅力的な講義も非常に多いです。例えば、ラッパーの Zebra さんによる HIPHOP 文化の講座でラップを学ぶ授業や、コンサルティング企業の方と一緒に起業を考える授業など、幅広い分野に触れられることが魅力だと感じています。

②群馬ではなかなか出会えなかったような環境で育った人たちと関わり、多くの刺激を受けました。正直、その違いに落ち込むこともありましたが、社会に出る前に広い世界を知れたことは、自分にとって大きな財産になったと思っています。

③慶應には「将来何をしたいか」「どんな人物になりたいか」など、自分なりの軸を持って行動している人が多い印象があります。学問や就職活動に限らず、部活・サークル・趣味など何かに本気で打ち込んでいること自体を評価してくれる雰囲気があります。留学や起業をした先輩、プロの芸人になった先輩、YouTuber になって月収何百万と稼いでいる先輩もいます！いわゆるレール通りでない道も認めてくれるところは、慶應の大きな魅力だと思います（一方で、それがプレッシャーになったり、人と比べてしまう原因になることもあります）。

また、私は令和ロマン、真空ジェシカなどがOBにいるお笑いサークルに所属していて、ライブ運営や舞台装置の操作などの裏方業務を担当しています。慶應では年に3回学園祭が開催され、中でも三田祭は4日間にわたる大規模な学園祭で、多くのサークルやゼミ活動を見ることができます。（今年は11/20（金）～11/23（月・祝）であるので興味ある方ぜひ！）授業、サークル、環境、人間関係など、どれも多様性にあふれた自由な学校だと思います。興味がある方は、ぜひオープンキャンパスや学園祭に来てみてください！私は6/12まで教育実習をさせていただくので、何でも気軽に聞いてください！！



立教大学理学部（I 実習生）

立教大学には、対照的な魅力を持つ2つのキャンパスがあります。池袋のキャンパスは、赤レンガにツタが生えるレトロで美しい校舎があり、都心のキャンパスには珍しく緑が多いです。一方で、新座のキャンパスは、近代的でスタイリッシュな建物が並び、開放的な空間です。キリスト教の伝統を持つ大学のため、クリスマス時期は一年で一番活気があふれる季節になります。両方のキャンパスで大きなツリーが点灯するイルミネーションは、冬の醍醐味です。また、どちらのキャンパスにも非常にきれいで充実した図書館があり、勉強やグループワークに最適な環境が整っています。



もう一つの大きな魅力が、4年間を通じて専門の枠を超えた多様な学問に触れられる「自由な学府」としてのカリキュラムです。全学生が履修する独自の共通教育で、自分の専門に限らず、心理学や宇宙科学、芸術、環境など多様な科目から自分の興味に合わせて自由に学ぶことができます。

また、私が所属する理学部化学科は、数学科や物理学科の女子割合が1割程度であるのに対し、約4割が女子学生と、理系の中では比較的女子が多い環境です。女子校出身の友人も多いので、高校時代の話などで共感できることも多く、とても楽しい毎日です。学業面に関しては、1.2年生は実験や必修の授業が多く、文系の学部と比べると忙しいです。特に実験の課題が多く、2年生は1週間に2回も実験があり、忙しい時期には毎週5000字以上のレポートを提出していました。私はさらに教職課程も履修していたため、2年次はほとんどバイトする暇がないくらいに授業と課題、テストに追われていました。ここまで聞くと大学生活、授業ばかりで楽しくないのではと感じるかもしれませんが、そんなことは全くありません！むしろ大学生になって行動範囲が広がったり、様々な考えを持つ友人と出会ったりして毎日が新鮮で楽しいです。また、学期中は忙しくても、長期休みにはサークルや友人との旅行、アルバイトなど思いっきり羽を伸ばす時間もあります。私はこの立教大学での生活が充実しすぎていて、今年で卒業したくないと思ってしまうほど、名残惜しい気持ちでいっぱいです。

みなさんの中には、今は勉強や部活で行き詰まっていたり、成績が思うように伸びなくて辛い思いをしたりしている人もいるかもしれません。でも、その努力の先には、本当に楽しい大学生活が待っています！大学生になると、自由に使える時間が一気に増えます。サークルやアルバイトだけでなく、ぜひ色々な人と触れ合って、たくさんの新しいことに挑戦してみてください。きっと、それがみなさんの世界を何倍も広げてくれるはずです！応援しています。

東北大学教育学部（Y 実習生）



私からは東北大学について、文系の話を中心に紹介したいと思います。私が通う川内キャンパスは北と南の二つに分けられます。大学1年生の間は文理関係なく川内北キャンパスで教養科目の授業を受けます。必修の授業は学部ごとにクラスが分かれています。自由選択の授業は色々な学部の人と同じ教室で学ぶため、自分と全く異なる興味関心を持つ人と仲良くなれる絶好のチャンスです。実際、私は授業で仲良くなった物理学科の子の影響から天文学に関心を持つようになり、天文同好会というサークルに頻りに顔を出すようになりました。

ここからは文系の学部と教育学部についてお話しします。文系は川内北キャンパスから10分ほど歩いた先にある川内南キャンパスにて授業を受けており、文学部・経済学部・法学部・教育学部の四つの学部から構成されます。東北大学は理系の生徒が非常に多く、文系と理系の人数比はおおよそ3:7です。学内ではレアな文系ですが、なかでも教育学部の生徒

は一学年あたり 70 人と非常に少ないです。それに対して所属している教授の数は 35 人。一人の教授に対する生徒数が少ないので、非常に手厚い研究指導を受けることができます。

また、東北大学の教育学部は一般的な教員養成系と異なり、教育学について総合的に学べる点が大きな特徴です。教育制度や政策、障害を抱える子どもの支援、心理カウンセリング、効果的な教授法、地域での学びの場の創出など、教育にまつわるものなら何でも学ぶことができます。公認心理師の受験資格を得られるカリキュラムもあるので心理学に関心を持つ生徒も多く、「ちょっとだけ教育に興味があるけれど、教員になるかは分からない……」という方には非常にオススメな学部です。

ついでに学生のバイト事情についてもちょっとだけ書いておきます。私の周りの学生たちは、4 割が塾講師や家庭教師、4 割が居酒屋など飲食店、2 割がその他で働いています。その他の中には、コールセンター、ホテルのフロント、球場のビールの売り子、水族館の売店、アウトレットのアパレル、科学館、大学の研究室や図書館などがあります。仙台ならではの特殊な求人も多いので、バイトに対してお金を稼ぐ以上の楽しみを見出すこともできます。

東北大にはここでは語りつくせないが沢山あります。学部での勉強はもちろん大切ですが、部活・サークル活動・アルバイト・お出かけ・飲み会など、大学生活は楽しいことで溢れていて時間がいくらあっても足りません。皆さんの貴重な大学生活を預けるのに相応しい場所はどこか、ゆっくり時間をかけて考えてください。応援しています。

新潟大学理学部 (T 実習生・S 実習生)

私たちは、新潟大学理学部理学科化学プログラム (T) とフィールド科学人材育成プログラム (S) に所属しています。

新潟大学の魅力のひとつとして、学内の施設がとても充実しているところがあります。特に私 (T) がおすすめしたいのは、学内にあるパン屋さんです。毎日出来立てのあたたかいパンが販売されていて、授業の合間や昼休みに気軽に買いに行くことができます。パンの種類も豊富で、惣菜パンから甘いパンまでたくさん並んでいるので、行くたびに今日は何を食べようかなと迷ってしまうほどです。期間限定の商品が出ていることもあり、つい何度も通いたくなります。また、ベーカリーではソフトクリームも販売されていて、新潟の暑い夏には欠かせない存在です。群馬ほどではないかもしれませんが、新潟も夏はかなり暑くなるので、授業終わりに食べるソフトクリームがちょっとした楽しみになっています。

さらに、図書館の 1 階には新しくカフェもできました。落ち着いた雰囲気の中でゆっくり過ごすことができ、勉強の合間の休憩にもぴったりです。ドリンクだけでなく、野菜プレートなどのご飯ものも販売されていて、学内とは思えないくらい本格的なメニューを楽しめます。私はまだ一度しか利用したことがないのですが、実際に食べてみるととても美味しくてまた行きたいと思うような場所です。このように、勉強だけでなく、学生生活を楽しく快適に過ごせる環境が整っているところが新潟大学の大きな魅力だと思います。(T)

私 (S) からは、新潟大学 (以下新大) ならではの面白い授業についてお話しさせていただきたいと思います。新潟といえば…そう！お米！新大ではお米に関連する様々な授業が展開されています。例えば、日本酒学という授業では、20 歳以上の学生限定で実際に新潟のお米から作られた日本酒を試飲できるそうです (ちなみに私 (S) は下戸で全く飲めません)。



また、新潟といえばトキ！(皆さん耳にしたことはありますか?) トキにまつわる授業もたくさんあり、どの授業も定員オーバーになる程人気です。さらに、私 (S) の所属するプログラムでは、トキが息する佐渡ヶ島での実習授業も頻繁に実施しています。特に印象に残っている臨海実習では、約一週間佐渡の研究所に宿泊し、佐渡の綺麗な海に入って磯生物採集したり、海洋生物のスケッチをしたり、小型船に乗って釣りをしたり、最終日には BBQ をしたりしました。少し専攻に寄った話にな



ってしまいましたが、新潟という地ならではの特色ある授業が多いところも新潟大学の魅力だと思います。

これは余談ですが実は私たち、大学学部が同じことに加え、所属サークル1つ、初めてのバイト先、住んでいるマンションまでも一緒です笑。教育実習も一緒なので私としては非常に心強いです。前女時代は接点がありませんでしたため、正直ここまで長い付き合いになるとは思っていませんでしたが、何かあるかわからないものですね。ぜひ皆さんも前女はじめ、様々なご縁を大切に、毎日を楽しんでください。(S)